

## 屋久島から得られたウスメバル *Sebastes thompsoni* の南限記録

岩坪洗樹<sup>1</sup>・山口 実<sup>2</sup>・畑 晴陵<sup>3</sup>・本村浩之<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 〒 898-0001 鹿児島県枕崎市松之尾町 33-1 枕崎お魚センター 1F 鹿児島水族博物館

<sup>2</sup> 〒 890-0063 鹿児島市鴨池 1-36-12 山実水産

<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学研究所)

<sup>4</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

ウスメバル *Sebastes thompsoni* (Jordan and Hubbs, 1925) は、岩手県から得られた 1 標本と大阪府から得られた 2 標本に基づき新種記載された。ウスメバルは日本と朝鮮半島東岸から南岸にかけて分布し、日本国内ではこれまでに、北海道から高知県土佐湾にかけての太平洋沿岸、北海道から対馬にかけての日本海沿岸、および大阪府沿岸から記録されている (中坊・甲斐, 2013 など)。Motomura et al. (2010) は、2008 年から 2009 年にかけて大隅諸島屋久島ではほぼ網羅的な魚類相調査を行い、標本採集や水中写真の収集をするとともに、それ以前の屋久島産の標本や屋久島産の魚類を報告した文献も調査し、112 科 382 属 951 種の海産魚類を記録した。その後 Motomura and Aizawa (2011) などによって追加報告がなされたが、屋久島から採集されたメバル科魚類の報告はアヤマカサゴ *Sebastes albofasciatus* (Lacepède, 1802) のみである (Motomura et al., 2010)。

2015 年 4 月 7 日に屋久島南方沖で 1 個体のウスメバルが採集された。本標本は、鹿児島県における初めての記録であり、屋久島の魚類相の追加

種となると同時に、ウスメバルの南限記録となるため、ここに記載し報告する。また、本報告ではウスメバルの分布について若干の考察をおこなった。

### 材料と方法

標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) にしたがった。標本の作製法は本村 (2009) にしたがった。標準体長 (standard length) は体長 (SL) と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位までおこない、計測値は体長に対する百分率で示した。胸鰭軟条数は左体側のものを計数した。生鮮時のウスメバルの体色の記載は、KAUM-I. 71407 の生鮮時のカラー写真に基づく。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、標本のカラー写真は同館の画像データベースに登録されている。本報告で用いられている研究機関略号は、以下のとおり：KAUM—鹿児島大学総合研究博物館；WMNH-PIS-WW—和歌山県立自然博物館池田魚類コレクション。

### 結果と考察

*Sebastes thompsoni* (Jordan and Hubbs, 1925)

ウスメバル (Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 71407, 体長 223.3 mm, 鹿児島県屋久島南方沖 (鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入), 2015 年 4 月 7 日, 水深約 80 m, 釣り, 山口 実・岩坪洗樹。

Iwatsubo, H., M. Yamaguchi, H. Hata and H. Motomura. 2015. Occurrence of Goldeye Rockfish, *Sebastes thompsoni* (Perciformes: Sebastidae), from Yaku-shima island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 41–45.

✉ HM: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Sebastes thompsoni* from Yaku-shima island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan (KAUM-I-71407, 223.3 mm standard length).

**記載** 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は楕円形で、よく側扁する。頭部と体は櫛鱗で被われる。口は端位かつ斜位。主上顎骨後端は眼の中央を通る垂線に達する。下顎は上顎よりやや突出する。鼻孔は 2 対あり、前鼻孔と後鼻孔はほぼ同大。前鼻孔に 1 皮弁を有する。眼窩下縁は滑らかである。涙骨に顕著な棘が 2 本ある。頭頂棘は鈍く、一部は小さい鱗に被われている。頬部は滑らかで隆起線や棘がない。前鰓蓋骨後縁に棘が 5 本あり、第 2 棘が最も大きく、続いて第 3 棘、第 1 棘の順に小さい。前鰓蓋骨後縁の第 4・5 棘は痕跡的。主鰓蓋骨上に顕著な棘が 2 本あり、第 1 棘が第 2 棘より大きい。主鰓蓋骨の上方に棘が 2 本あり、それぞれほぼ同大で、主鰓蓋骨上の第 1 棘よりやや小さい。側線は主上顎骨上端の上方から始まり尾鰭基底まで達する。背鰭棘は第 1 棘が最も小さく、第 3 棘の 1/2 以下の長さである。臀鰭棘は第 2・3 棘がよく発達し、それぞれ第 1 棘の 2 倍以上の長さである。尾鰭は截形。

**色彩** 生鮮時の色彩 — 頭部と体側の地色は桃色で、上部でやや濃く、下部で淡い。体側の上半

分に、不定形の濃褐色帯が合計 5 本ある。眼の外縁は黄色。光彩は黒色がかった金色。背鰭棘部は淡い褐色。各鰭の軟条部は桃色だが、腹鰭と臀鰭は淡い。

**分布** 日本と朝鮮半島東岸から南岸にかけて分布する (Mori, 1952; Kim et al., 2005; 中坊・甲斐, 2013)。国内では、北海道から高知県土佐湾にかけての太平洋沿岸、北海道から対馬にかけての日本海沿岸、大阪府沿岸、および鹿児島県屋久島に分布する (Jordan and Hubbs, 1925; 岡田ほか, 1935; Matsubara, 1943; Lindberg and Krasnyukova, 1987; Nagasawa and Kobayashi, 1995; 中坊・甲斐, 2013; 池田・中坊, 2015; 本報告)。

**備考** 記載標本は、眼窩下縁が滑らかであること、頬部は滑らかで隆起線や棘がないこと、涙骨に顕著な棘が 2 本あること、頭頂棘は鈍く、一部が小さい鱗に被われていること、側線有孔鱗数が 55 であること、体側の上半分に不定形の濃褐色帯が合計 5 本あることなどの特徴を有する。これらの特徴は中坊・甲斐 (2013) で示されたウスメバル *Sebastes thompsoni* (Jordan and Hubbs, 1925) の特徴と一致するため、記載標本をウスメバルと

同定した。また、記載標本は本報告で用いた比較標本（日本海産）とも計数・計測値が近似した（Table 1）。

ウスメバルは日本国内ではこれまでに、北海道（益田・小林, 1994; 前田・筒井, 2003; 石田, 2009), 山形県（望月, 1985), 新潟県（本間, 1952; Nagasawa and Kobayashi, 1995), 京都府（Nagasawa and Kobayashi, 1995; 田中, 1998), 兵庫県日本海側（鈴木・宇野, 1993; Nagasawa and Kobayashi, 1995), 岩手県（Jordan and Hubbs, 1925), 相模灘（Senou et al., 2006), 和歌山県（池田・中坊, 2015), 大阪府（Jordan and Hubbs, 1925; Matsubara, 1943), および高知県（Lindberg and Krasnyukova, 1987）などから記録がある。したがって、記載標本は、ウスメバルの鹿児島県初記録となるとともに、分布の南限を更新するもので

ある。中坊・甲斐（2013）は、大阪府（Jordan and Hubbs, 1925; Matsubara, 1943), 高知県（Lindberg and Krasnyukova, 1987), および黄海（金, 2006）からの記録を、ウスメバルの分布域としては特異的なもので、検討が必要であるとして分布に含めなかった。しかし、その後の報告で和歌山県から得られたウスメバル2標本 [WMNH-PIS-WW 29706 (1), 体長 205 mm, 29706 (2), 259 mm] が記録された（池田・中坊, 2015）。和歌山県からの記録は、中坊・甲斐（2013）が分布の太平洋側の南限とした相模湾から大阪府と高知県までの分布の空白域を埋めるものである。よって、北海道から高知県までの太平洋沿岸と大阪府沿岸をウスメバルの分布域として扱うのが妥当である。

屋久島産のウスメバルも、従来の分布域から考えると極めて特異的なものである。これまでに

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of *Sebastes thompsoni*.

KAUM-I.	71407	9819	39640	39641
Locality	Kagoshima	Yamagata	Kyoto	Kyoto
Standard length (SL; mm)	223.3	162.9	45.7	43.4
Counts				
Dorsal-fin rays	XIII, 14	XIII, 14	XIII, 14	XIII, 13
Anal-fin rays	II, 7	III, 7	III, 7	II, 7
Pectoral-fin rays	16	16	17	16
Pectoral-fin rays (unbranched)	8	8	9	8
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5
Gill rakers on first gill arch	38	41	39	39
Tubed lateral-line scales	55	53	53	55
Measurements (% SL)				
Head length	35.0	34.1	35.4	35.7
Snout length	5.4	4.8	5.0	4.8
Orbit diameter	9.8	10.0	11.4	12.4
Interorbital width	8.6	8.6	8.8	9.4
Maximum body depth	36.5	39.7	34.8	32.7
Maximum body width	17.1	20.9	14.4	14.7
Caudal-peduncle depth	11.2	11.2	9.6	9.9
Upper-jaw length	16.0	14.2	14.0	14.1
Mandible length	12.4	11.8	11.4	10.4
Pre-dorsal-fin length	32.7	33.3	35.0	34.6
Pectoral-fin length	28.9	27.4	29.3	29.0
Pelvic-fin length	21.4	20.3	20.1	19.6
Pelvic-fin spine length	13.4	13.6	14.9	14.7
1st dorsal-fin spine length	6.4	6.1	6.8	7.1
2nd dorsal-fin spine length	9.5	9.9	11.8	11.5
3rd dorsal-fin spine length	13.2	13.6	14.2	14.5
4th dorsal-fin spine length	13.9	14.4	14.9	15.4
5th dorsal-fin spine length	13.8	14.2	15.1	15.7
12th dorsal-fin spine length	6.9	8.5	9.8	9.2
13th dorsal-fin spine length	11.4	—	12.0	12.2
1st anal-fin spine length	5.9	6.0	6.8	7.4
2nd anal-fin spine length	12.5	13.3	17.3	18.0
3rd anal-fin spine length	13.8	15.7	17.1	17.1

鹿児島県周辺海域から採集されて分布の南限記録として報告された魚類で、薩摩半島西岸沖を流れる南下流によって運ばれてきたものと考えられる例がある。ムラソイ *Sebastes pachycephalus pachycephalus* Temminck and Schlegel, 1843 は鹿児島県北西部では普通にみられるが、薩摩半島西岸からの記録はなく、2007年に鹿児島湾から幼魚が1個体採集された(本村, 2007)。鹿児島湾ではムラソイの成魚の記録もないことから、採集された幼魚は薩摩半島西岸を流れる南下流によって八代海方面から運ばれてきたと考えられている(本村, 2012)。さらに、2012年には屋久島北部一湊沖で1個体のクジメ *Hexagrammos agrammus* (Temminck and Schlegel, 1844) が撮影された(本村, 2015)。クジメの分布は長崎県が南限であることと、屋久島からは1個体のみしか確認されていないことから、屋久島で確認されたクジメも南下流によって運ばれてきたと考えられている(本村, 2015)。したがって、本報告での屋久島産のウスメバルも、薩摩半島西岸沖を流れる南下流によって運ばれてきた可能性が高い。

本報告で用いたウスメバルの標本(KAUM-I. 71407)は、選別の際に市場で用いられる手鉤によって開けられた穴が、左側の主鰓蓋骨と胸鰭下方のそれぞれにある。

**比較標本** KAUM-I. 9819, 体長 162.9 mm, 山形県飛島沖, 1996年, 本村浩之。KAUM-I. 39640, 体長 45.7 mm, KAUM-I. 39641, 体長 43.4 mm, 京都府舞鶴市瀬崎地崎 (35°32'32"N, 135°20'30"E), 2011年7月4日, 定置網, 荻原豪太・甲斐嘉晃。

## 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島県漁業協同組合連合会の宮内浩三氏には屋久島産ウスメバル(KAUM-I. 71407)の採集情報を提供していただいた。また、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまには標本整理などのご協力をいただいた。以上の諸氏に対して深く感謝の意を表す。なお本研究は、鹿児島水族博物館の「かごしま 市場の魚図鑑プロジェクト」と鹿児島大

学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。また、本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPSアジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイバビリティの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## 参考文献

- 本間義治. 1952. 新潟県魚類目録(続き). 魚類学雑誌, 2 (4-5): 220-229.
- Hubbs, C. L. and Lagler, K. F. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Cranbrook Institute of Science Bulletin (26): i-xi + 1-186.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 石田 実. 2009. ウスメバル. P. 190. 岡村 収・尼岡邦夫(編), 日本の海水魚 第三版. 山と溪谷社, 東京.
- Jordan, D. S. and Hubbs, C. L. 1925. Record of fishes obtained by David Starr Jordan in Japan, 1922. Memoirs of the Carnegie Museum, 10 (2): 93-330.
- Kim, I. S., Choi, Y., Lee, C. L., Lee, Y. J., Kim, B. J. and Kim, J. H. 2005. Illustrated book of Korean fishes. Kyohak Publishing, Seoul. 615 pp.
- 金 鑫波. 2006. 中国動物誌 硬骨魚綱 鮪形目. 科学出版社, 北京. 739 pp.
- Lindberg, G. U. and Krasnyukova, Z. V. 1987. Fishes of the Sea of Japan and adjacent parts of Okhotsk and Yellow Sea. Part 5. Teleostomi, Osteichthyes, Actinopterygii. 30 Scorpaeniformes (176. Family Scorpaenidae - 194. Family Liparididae). Nauka, Leningrad. 526 pp.
- 前田圭司・筒井大輔. 2003. 北海道産魚類リスト. Pp. 481-504. 水島敏博・島澤 雅(監修), 上田吉幸・前田圭司・嶋田 宏・鷹見達也(編), 漁業生物図鑑 新北のさかなたち. 北海道新聞社, 札幌.
- 益田 一・小林安雅. 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 東海大学出版会, 東京. xlvi + 467 pp.
- Matsubara, K. 1943. Studies on the scorpaenoid fishes of Japan. Anatomy, phylogeny and taxonomy (II). Transactions of the Sigenkagaku Kenkyusyo, 2: 171-486.
- 望月賢二. 1985. ウスメバル. P. 122. 小西知人(編), 魚大図鑑. 週刊釣りサンデー, 大阪.

- Mori, T. 1952. Check list of the fishes of Korea. Memoirs of the Hyogo University of Agriculture, 1 (3): 1–228.
- 本村浩之. 2007. 2007年5月に採集された鹿児島湾初記録の魚. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, (17): 1.
- 本村浩之 (編). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 本村浩之. 2012. 黒潮が育む鹿児島県の魚類多様性. Pp. 19–45. 松浦啓一 (編). 黒潮の魚たち. 東海大学出版会, 秦野.
- 本村浩之. 2015. 琉球列島の魚類多様性. Pp. 56–63. 日本生態学会 (編). 南西諸島の生物多様性, その成立と保全. 南方新社, 鹿児島.
- Motomura, H. and Aizawa, M. 2011. Illustrated list of additions to the ichthyofauna of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan: 50 new records from the island. Check List, 7 (4): 448–457.
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogiwara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65–247 in Motomura, H. and Matsuura, K. eds. Fishes of Yaku-shima Island — A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Nagasawa, T. and Kobayashi, T. 1995. The early life history of the rockfish, *Sebastes thompsoni* (Scorpaenidae), in the Sea of Japan. Japanese Journal of Ichthyology, 41 (4): 385–396.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. メバル科. Pp. 668–681, 1933–1938. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 岡田彌一郎・内田恵太郎・松原喜代松. 1935. 日本魚類図説. 三省堂, 東京. 426 + 46 pp.
- Senou, H., Matsuura, K. and Shinohara, G. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Science Museum, 41: 389–542.
- 鈴木寿之・宇野政美. 1993. 魚類図鑑 浜坂町の沿岸魚. 浜坂町, 浜坂. 34 pp.
- 田中雅幸. 1998. 京都府沿岸域におけるウスメバル稚魚の出現について. 京都府立海洋センター研究報告, 20: 62–68.